

令和6(2024)年度第1回宇都宮地域医療構想調整会議並びに
宇都宮構想区域病院及び有床診療所会議 合同会議 結果報告書

- 1 日 時 令和6(2024)年6月18日(火) 18時30分～19時30分
- 2 出席者 出席者名簿のとおり
- 3 開催方法 Zoomを利用したWeb開催(県会場:本館6階・大会議室1)
- 4 議 題

(1) 令和6(2024)年度地域医療構想の進め方について【資料1】

- 医療政策課から資料1に基づき説明
- 質疑、意見等はなし

(2) 病床機能報告上の病床数と将来の病床数の必要量との差異について【資料2】

- 医療政策課から資料2に基づき説明
- 質疑、意見等は以下のとおり

[宮崎委員(全国健康保険協会栃木支部)]

病床数についてだが、定量基準による算出がなされたのは大変良かったと思っている。今までの会議でも何回か発言させてもらったが、病床数については病棟単位での報告、更には、医療機関の判断で医療機能を決めている部分もあって、正しく実態が反映されていなかった部分もあったと思う。

今回の定量基準の導入によって、より実態に近づいた検証ができるものというふうにする。

それから、資料1のほうになるかもしれないが、医療データの分析の部分で、これは協会けんぽもデータ提供をさせていただいているが、今後は、特に、在宅医療や介護についても、データ分析をしっかりとやって、見える化を図って、新しい地域医療構想の策定について地域毎に議論していくべきと考えている。

[金構成員(宇都宮脳脊髄センター・シンフォニー病院)]

この定量基準の細分類というのは概ね分かるが、例えば、回復期だとしたら回復期としての、我々の領域だったら、神経系のリハビリテーション機能を当然持っていないといけないと思うわけであり、例えば、13対1の入院基本料の専門病院というのは、そういう機能を持つと考えられるのか。

それから、地域包括ケアの病棟の中も全部回復期と言っているが、専門的なリハビリテーションのことも含めると、このように回復期というふうに押し並べて、回復期機能が足りていると考えるのは、少し違和感を覚えるが、いかがか。

本来の回復リハビリテーション病院の機能をこのように再分類された病院が満たされているという根拠が何かあるのか。

[早川主幹(医療政策課)]

あくまで医療機能の切り方を提示させていただいたものと考えている。

このような分類でいいかどうかを含めて御意見をいただきたいと思っている。

入院基本料で見た場合にどの分類に入れると良いかという御意見もいただいて、それに合わせて、切り直しはしたいと思っている。

病棟そのものが一つの機能を担っているわけではないと認識はしているので、あくまでも一定の見方をした場合、どのような割合で機能が存在しているかということの評価することで、国からの宿題の回答を用意するということだと思っている。

今後のあるべき医療提供体制については、先生がおっしゃるとおり、細かい医療機能を見ていかないといけないと思っているので、その分類についての率直な意見をいただきたいと思う。

[金構成員（宇都宮脳脊髄センター・シンフォニー病院）]

この棒グラフで必要病床数に近づいているということが、正しいかのようなニュアンスで語られているような気がするが、全然そうではなくて、こういうふうになると辻褄が合うというだけで、実際の県の医療の体制としては、それを果たしていると私には当然この数字からは思えないが、こういうことで政策を決めていいのか。

[早川主幹（医療政策課）]

そういう意見も含めて検討していきたい。少なくとも、急性期一般を全て急性期と捉えていいのかという議論もあるかと思うので、そういう意見も含めて検討が必要だと考えている。

[藤井委員（藤井脳神経外科病院）]

私の場合は、金先生とだいぶ違う。元々は、入院基本料がどうかというところで作られた基準である。回復期リハビリテーション病棟の数とは全く違うわけである。

前から言っているが、回復期という定義が曖昧のまま始まっているので、いつもこの議論になってしまうわけだが、元々の考え方は、今、県が説明したとおり。

そのため、別にそんなにおかしな状況ではないと思うし、必要病床数に近づいたのではなくて、元々がこうなんだという話で、元々こういう状況だったのに、なぜこんな議論を今まで長くやってきたんだろうというふうに、むしろ、金先生とは別の立場で違和感を持っている。

[早川主幹（医療政策課）]

金先生の御質問もそのとおりと思うところもある。医療機能をどう考えるかという議論がないままで、厚労省が示した基準は、点数で区切って分類してスタートした部分があり、それに合っていない県はどうなっているのかということはずっと問われているのが現状で、整理をしなければならない状況である。

これが十分かどうかは県としては考えていなくて、地域ごとにあるべき医療を考えていかないといけないと思うが、必要病床数と言われているものに関しての見方を整理し

ていかなければならないという現状はあるので、それについての一定の考え方を示したものである。

急性期の入院基本料を取っている医療機関が、ほとんど急性期と回答している事実については認識しているが、自院で回答をすることが難しい場合もあると思うので、県のほうで今回は機械的に切ってみたという現状については御認識いただきたい。

これとは別に地域医療のあるべき姿については改めて議論するので、これは国からの宿題を整理するための部分というところでの御理解をいただきたい。

[富塚構成員（富塚メディカルクリニック）]

当院は有床診療所で急性期だが、こういうふうに機械的に分類すると、国へ提出するために作っただけという話だと思うが、全く意味のないものだと思う。これは作成する意味があるのか。

[早川主幹（医療政策課）]

これについては繰り返し検討する必要があると言われると、低いと考えているので、整理してしまいたいというところ。

ただ一方で、病床機能報告自体に意味がないわけではないと思っている。各医療機関の医療の内容は整理できるものであり、こちらについては、この後データをお示しするが、医療機能を答えることについてはあまり意味がないと思っている。病床機能報告全体を否定するものではなく、数合わせをすること自体の意義については低いと考えている。

[富塚構成員（富塚メディカルクリニック）]

きちっと最初からこのような案ではなくて、急性期をやっている有床診療所はいくつか限られているので、最初からきちっとした形でやってもらって、こういう形で静岡県方式に合わせる必要は全くないと思う。栃木県できちっとした数でやるべき。そうでないと、全く無意味なデータだと思う。

[村井委員（一般社団法人宇都宮市医師会）]

今、様々な病棟の定義や定量基準について意見をいただいたが、1つは、国へはある一定の報告をしなければならないし、そこは早く決着をつけたいということがある。

もう1つは、本来の県とか宇都宮市のあるべき姿というのはどこかという議論を早くしたいということだと思う。

国へはある一定の回答をして負荷を下ろしたいということは私も理解できるが、もう一方で、富塚先生であれば、有床診療所の急性期、あるいは藤井先生や金先生であれば、神経疾患の回復期が足りないかどうかという肌感覚、運営している側の感覚で、何が足りない、あるいは何が余っているかと思っているのかということ、ぜひ伺いたいというふうに思うが、いかがか。

[金構成員（宇都宮脳脊髄センター・シンフォニー病院）]

肌感覚ということで、藤井先生がどのようにお考えになっているか分からないが、私たちの場合ですと、本格的な脳神経系の回復期リハビリテーションは、送り先に苦慮しているというのが実態。この患者さんを本当によくしなければいけないんだけど、どこにお願いしようかなという時に、苦慮することもしばしばというのが現状。

(3) 県内及び宇都宮医療圏の医療提供状況と医療需要について【資料 3-1、3-2】

[早川主幹（医療政策課）]

資料の説明に入る前にこちらの議題を設けた理由を2つ説明させていただく。

先ほどの議題でもあったように、どういう医療が足りないか、あるいはこういう医療は多くなっていて、こういうものにしていかなければならないのではないかとということを検討していきたいということが根底にある。

これから示す資料は非常に粗い内容となっている。県全体のものと宇都宮圏域に限ったものをお示しするが、これを深掘りしていくためにどういうことを見える化していくべきかという点について御意見をいただきたい。また、それらに対して、こういう課題があるので、こういう取組が必要ではないかという御意見もいただきたい。

もう1点は、次の議題の推進区域の選定に関する議論に際して、この地域の状況を聞いていただきたいと思う。

● 医療政策課から資料 3-1、3-2 に基づき説明

[大塚主任（医療政策課）]

（資料の説明後）

今回は昨年度、医療機関から協力を得て取得した DPC データのローデータを用いて一部資料を作成したが、データ提供の依頼の際に、地域医療構想調整会議等において病院ごとの診療実績として情報を提供する旨を依頼通知に記載させていただいた。

改めてとなるが、今後、DPC のローデータを用いた資料については、必要に応じて医療機関名も記載していきたいと考えていて、各医療機関がどのような医療を提供しているのかというところを見える化した上で、地域の議論により資するようなデータをお示ししていきたいと考えている。

こちらについて、異議等がある場合は、個別にお問い合わせをいただきたい。

● 質疑、意見等は以下のとおり

[金構成員（宇都宮脳脊髄センター・シンフォニー病院）]

流入流出のデータはこのとおりだと思うが、これを地域医療構想で考える時には、県南への流出が多いということを政策上、これからどうするのか。この流出に頼っていて良いのか、宇都宮医療圏の病床はもっと少なくとも良いと考えるのか、この流出では患者さんが不便だから、もっと市内での医療供給を上げていくべきというふうに考えるのか。ポリシーの方向性はどうか考えているのか。

[早川主幹（医療政策課）]

そのポリシーを協議するのがこの場と認識している。県がこれをすべきだということではなくて、皆様とこの現状を踏まえながら、どのようにしていくのか、それに向けた対応をどうするか県が一緒に考えていくものと認識している。

[石原委員（独立行政法人国立病院機構栃木医療センター）]

流入、流出はこういう状況だと思うが、疾患群によって、流出していいもの、流入していいものがあると思う。希少疾患や時間がかかっていい疾患というのは、圏外流出は許されるべきだと思うし、逆に、治療までの時間がある程度短くなければならない疾患が流出していたら、市民、県民が大きく迷惑を被る状況になると思う。ただ流出しているからいけない、流入しているからいけないということではなく、疾患別に考えていかなければならないと個人的には思っているが、いかがか。

[早川主幹（医療政策課）]

まさにそのとおりだと思っており、どういう疾患で切ったらいいかということも改めて御意見をいただきたい。

また、これを見て、病床を減らす、減らさないという議論ではなく、地域内でどういう医療をカバーしていかなければならないかに応じて、施設の強化、人員の確保をどういうふうにしていくかを一緒に考えていくということが、この場だと思っている。

それに合わせて、例えば、医師確保について、県の施策的などところを見直そうと考えているので、こうした場を通じて、宇都宮医療圏、流入してくる患者を含めてどうするか、そういうものを検討していきたいと思う。

特に流出のことを言ったが、他圏域でも診られず、結果的に宇都宮圏域に流入してきた方もたくさんいると思うし、特に他圏域でカバーしきれない、脳血管疾患、心疾患などあると思うが、そのような今後もこの地域で見えていかなければならないものもあれば、それについての体制強化をしていかないといけないと思うので、そのあたりの議論もできればと考えている。

[金構成員（宇都宮脳脊髄センター・シンフォニー病院）]

もう1つだけよろしいか。今、石原先生から時間軸の、緊急性に沿った医療供給の必要ということ、大変大事なことをおっしゃったが、こういうところで聞いていると、大学病院というのが非常に巨大な存在であるという印象を持たれると思う。

しかし、実情は、大学病院の中でも、得意分野、不得意分野というものがどうしてもある。

この領域は大学病院ではあまりというところもあるし、大学それぞれ固有の事情があって、この領域の医療は残念ながら得意ではないようなところもあるので、大学病院があれば、そこに頼るという考えは、私はあまり肌に馴染まないと思う。

[石原委員（独立行政法人国立病院機構栃木医療センター）]

金先生の話聞いて思ったが、やはり診療能力というのは病院毎にあって、大学病院には大学病院なりの診療能力があると思うが、それでも大学病院に患者が流出してしまうのは、インターフェイスの問題というか、処理能力というよりも、その入り口の能力の問題が、それぞれの病院に能力のアップパーがあって、そこで制限されてしまっているようなところもあるので、病床と入り口の能力も適合させることも、今後は必要ではないかと私は今、聞いていて思った。

(4) 推進区域の選定について（非公表）

(5) その他

[早川主幹（医療政策課）]

最初の議題1について、少し聞きにくいところがあったということなので、改めて、今後のスケジュールについて説明させていただく。

これから地域医療構想を検討していくに当たっては、先ほど様々な御意見をいただいたが、病床数の整理については、国への回答を準備するというので、それについての検討は終わりにしたいと考えている。

一方で、今後の必要な医療体制整備については、もう少し具体的、個別に皆様から意見をいただきたいと考えている。

今後、毎回、会ごとに少しテーマを絞って、それについて議論を進めていきたいと考えている。

また、これまで病床や入院を中心に議論は行ってきたが、今後の地域医療構想という中には、外来や救急、在宅医療介護等を含めて、地域の医療介護全体を考えていくということが、やはり大きなテーマとなってくると思うので、事前に御意見を募ることや関係者に取組の発表をしていただくこともあるかもしれないので、その際は、よろしくお願ひしたい。

資料で提示しているものは、あくまで例示なので、議論する内容やテーマは少し変わるかもしれないが、もう少し個別具体的な分野を検討していきたいと思うので、それについても忌憚のない御意見をいただきたいと思う。

令和6(2024)年度第1回宇都宮地域医療構想調整会議並びに
宇都宮構想区域病院及び有床診療所会議 合同会議 出席者

●調整会議委員

令和6年6月18日時点

No.	団体名	役職名	委員名	出欠
1	一般社団法人宇都宮市医師会	会長	松本 国彦	会場
2	一般社団法人宇都宮市医師会	理事	村井 邦彦	会場
3	一般社団法人宇都宮市歯科医師会	会長	北條 茂男	欠席
4	一般社団法人宇都宮市薬剤師会	副会長	廣瀬 誠	web
5	公益社団法人栃木県看護協会	会長	朝野 春美	会場
6	済生会宇都宮病院	院長	野間 重孝	web
7	独立行政法人国立病院機構栃木医療センター	院長	石原 雅行	会場
8	独立行政法人国立病院機構宇都宮病院	院長	杉山 公美弥	web
9	独立行政法人地域医療機能推進機構うつのみや病院	院長	八木澤 隆	web
10	地方独立行政法人栃木県立がんセンター	理事長	尾澤 巖	web
11	宇都宮記念病院	院長	山本 雅一	web
12	藤井脳神経外科病院	理事長	藤井 卓	web
13	皆藤病院	院長	菊池 信子	web
14	根本外科胃腸科医院	理事長	根本 猛彦	web
15	一般社団法人栃木県老人福祉施設協議会	副会長	角田 充由	欠席
16	一般社団法人栃木県老人保健施設協会	理事	藤沼 澄夫	web
17	栃木県地域包括・在宅介護支援センター協議会	会員	佐藤 亜紀子	web
18	特定非営利活動法人とちぎケアマネジャー協会	副会長	川田 雅一	web
19	宇都宮市自治会連合会	会長	藤原 由房	会場
20	獨協医科大学	教授	小橋 元	欠席
21	全国健康保険協会栃木支部	支部長	宮崎 務	web
22	栃木銀行健康保険組合	常務理事	安蘇谷 秀夫	欠席
23	宇都宮市保健福祉部高齢福祉課	主幹(介護保険担当)	坂本 智美	web
24	宇都宮市保健福祉部保健所	所長	中村 好一	web

(地域医療構想アドバイザー)

No.	職名	氏名	出席方法
1	地域医療構想アドバイザー	稲野 秀孝	欠席
2	地域医療構想アドバイザー	白石 悟	欠席

(事務局)

No.	所属	職名	氏名	出席方法
1	栃木県保健福祉部医療政策課	課長	原戸 正道	会場
2	"	課長補佐(総括)	松本 秀一	会場
3	" (県立病院担当)	主幹(GL)	小峰 伸也	会場
4	" (県立病院担当)	主査	森戸 浩太郎	会場
5	" (県立病院担当)	主査	寺嶋 佑亮	会場
6	" (県立病院担当)	主事	郡司 あゆみ	会場
7	" (地域医療担当)	主幹(GL)	早川 貴裕	会場
8	" (地域医療担当)	副主幹	渡辺 光	会場
9	" (地域医療担当)	主査	竹内 雄飛	会場
10	" (地域医療担当)	主任	高山 祥	会場
11	" (地域医療担当)	主任	大塚 雅也	会場
12	" (地域医療担当)	主事	藤田 梅乃	会場
13	宇都宮市保健福祉部保健所総務課地域医療グループ	総務課係長	目黒 淳一	会場
14	宇都宮市保健福祉部保健所総務課地域医療グループ	総括	中沢 玲子	会場

令和6(2024)年度第1回宇都宮地域医療構想調整会議並びに
宇都宮構想区域病院及び有床診療所会議 合同会議 出席者

●病院及び有床診療所

令和6年6月18日時点

No.	種別	医療機関名	役職等	出席者名	出欠
1	病院	飯田病院	院長	村上 泰之	web
2	病院	上野病院	事務長代行	武石 清久	web
3	病院	報徳会宇都宮病院	—	—	欠席
4	病院	宇都宮記念病院	院長	山本 雅一	web
5	病院	宇都宮第一病院	事務長	須永 庸夫	web
6	病院	宇都宮中央病院	院長	石光 俊彦	web
7	病院	宇都宮内科病院	常務理事	河内 昌哉	web
8	病院	宇都宮脳脊髄センター・シンフォニー病院	院長	金 彪	web
9	病院	宇都宮東病院	院長	大須賀 淳一	web
10	病院	宇都宮南病院	総務	高橋 毅志	web
11	病院	宇都宮リハビリテーション病院	院長	三澤 吉雄	web
12	病院	皆藤病院	院長	菊池 信子	web
13	病院	倉持病院	—	—	欠席
14	病院	済生会宇都宮病院	院長	野間 重孝	web
15	病院	佐藤病院	理事長	佐藤 泰介	web
16	病院	柴病院	理事長兼院長	柴 美佳子	web
17	病院	白澤病院	院長	菅間 康夫	Web
18	病院	新宇都宮リハビリテーション病院	院長	佐藤 道哉	web
19	病院	独立行政法人国立病院機構宇都宮病院	院長	杉山 公美弥	web
20	病院	独立行政法人国立病院機構栃木医療センター	院長	石原 雅行	会場
21	病院	独立行政法人地域医療機能推進機構うつのみや病院	院長	八木澤 隆	web
22	病院	栃木県立がんセンター	理事長	尾澤 巖	web
23	病院	栃木県立リハビリテーションセンター	管理部長	山中 英雄	web
24	病院	沼尾病院			
25	病院	原眼科病院	総務部長	武井 宏人	web
26	病院	藤井脳神経外科病院	理事長	藤井 卓	web
			院長	鈴木 康隆	web
27	病院	鷺谷記念病院	—	—	欠席
28	診療所	アルテミス宇都宮クリニック			
29	診療所	高橋消化器内科糖尿病内科			
30	診療所	インターパーク倉持呼吸器内科	—	—	欠席
31	診療所	宇都宮協立診療所	—	—	欠席
32	診療所	宇都宮肛門・胃腸クリニック			
33	診療所	宇都宮整形外科内科クリニック			
34	診療所	宇都宮脳脊髄センター	理事長	金 初美	web
35	診療所	おおくぼ眼科			
36	診療所	大野内科医院			
37	診療所	奥田クリニック			
38	診療所	かわつクリニック			
39	診療所	こいけレディースクリニック	—	—	欠席
40	診療所	柴崎外科医院	—	—	欠席
41	診療所	たかしま耳鼻咽喉科			
42	診療所	高橋あきら産婦人科医院			
43	診療所	高橋レディースクリニック	—	—	欠席
44	診療所	ちかざわLadies'クリニック	—	—	欠席
45	診療所	冨塚メディカルクリニック	院長	冨塚 浩	web
46	診療所	中田ウィメンズ&キッズクリニック			
47	診療所	根本外科胃腸科医院	理事長	根本 猛彦	web
48	診療所	のうか眼科	—	—	欠席
49	診療所	はぎわらクリニック	常勤医	萩原 正博	web
50	診療所	早津眼科医院	—	—	欠席
51	診療所	福島眼科医院	—	—	欠席
52	診療所	みずほの耳鼻咽喉科			
53	診療所	村山医院			
54	診療所	目黒医院	—	—	欠席
55	診療所	ゆめクリニック			